

英文メディアの同格表現にみる制限用法関係代名詞 *that/which* の選択要因について¹

小 西 和 久
(早稲田大学)

1. はじめに

英米の一流ニュースメディアの stylebook には、所謂 *that/which rule* が例外なく記載されている。stylebook とはニュース原稿の作成にあたり、記者や編集者が従うべき語法などのルールを記したマニュアルである。多くのジャーナリストが利用されると言われる *The Associated Press Stylebook 2015 and Briefing on Media Law* (以下、*AP Stylebook*) には、本ルールは次のように解説されている。

Use *that* and *which* in referring to inanimate objects and to animals without a name. Use *that* for essential clauses, important to the meaning of a sentence, and without commas: *I remember the day that² we met.* Use *which* for nonessential clauses, where the pronoun is less necessary, and use commas: *The team, which finished last a year ago, is in first place.*³

先行詞が人や、名前が付けられた動物以外の場合には、関係代名詞制限節では *that* を、非制限節では「カンマ + *which*」を用いるというルールである。では、なぜ *that/which rule* が重視されるのであろうか。この点に関しては、拙稿「英文メディアにみる exceptional *which* に関する一考察」で *Banks which offer investment counseling are another possible source of help.* という文を一例として説明したが⁴、「投資相談は銀行業務の一部」との印象を持つ人がこの文を読むと、この *which* は非制限用法であるべきで、カンマを打ち忘れたものと疑う可能性が高い。あるいは、人によっては「投資相談を提供しない銀行もあり得るので、*which* は『投資相談をする銀行』に限定するための制限用法」と見なすかも知れない。こうした混乱を避けるために、制限用法では *that*、非制限用法では「カンマ + *which*」を用いることをルール化して記者や編集者が共有すれば、上記のような文に出くわした場合には、即座に「カンマの打ち忘れ」と判断することが可能となる。また、*that* が使われている場合には、迷わずに「投資相談を提供しない銀行も存在する」と判断することが可能となる。英米の一流メディアが、数多くのニュースを日々、作成し報道する際に、*that/which rule* を重視する所以と言えよう。

しかし、これらのメディアは時折、*that/which rule* を破り、制限節で *which* を用いることがある。例えば、*Longman Grammar of Spoken and Written English* はメディアが報じるニュースにおいて制限用法の *that* と *which* が用いられる頻度を *Longman Spoken and Written English Corpus* のデータをもとに示しているが、比率を計算すると米国メディアの場合には *that* が 81%、*which* が 19%、英国メディアの場合にはそれぞれ 46%、54%となる⁵。但し、英米の一流紙のみを対象とした場合、筆者の印象では両者ともに使用頻度は *that* が *which* を

大幅に上回る一方、*which* の使用頻度は英国の一流紙が米国の一流紙を遥かに上回るが、Longman のデータが示すよりは大幅に低いように思われる。因みに、2017年1月7日号の *The Economist* で用いられている制限用法の *that* と *which* の数は、前者が 214、後者が 24 で、*that* の比率が 90%、*which* が 10%となる。

何れにせよ、メディアにとってのバイブルとも呼ばれる *stylebook* に記されたルールを、何らかの理由で例外的に破らざるをえないと記者や編集者が判断する場合があることになり⁶、その一例が「同格表現」である。例えば、英国の *The Economist* は以下の用例1では *that*、用例2では *which*、米国の *The Wall Street Journal* は用例3では *that*、用例4では *which* を用いている。一方、同格表現中の制限節で *which* を使うことがジャーナリズムに特有な現象かどうかを確認するために、Mark Twain の *The Adventures of Tom Sawyer* をみると用例5では *that*、用例6では *which* が選択されている「(用例1～6の下線は筆者)」。同書に見られる Twain の関係代名詞 *that/which* の使用頻度をざっと数えてみると、*that* が制限用法で用いられている例が 187 に対して、前置詞を伴わない *which* が制限用法で用いられている例が 37 で、比率で示すとそれぞれ 83%、17%となり、*that/which rule* を基本的に遵守していることが分かる。

用例1 : And, critically, online courses are significantly cheaper than the in-person kind. Many are offered free, though providers sometimes charge to certify exam results. Fees at Minerva Schools, an online institution that aims for top-notch students, are half of those at Ivy League universities.
(*The Economist*)

用例2 : All this helps to explain concerns over the use of face-recognition software by the likes of Google and Facebook, which have been acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them. (Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition, the firm which owns the programme the researchers used for their tests.)
(*The Economist*)

用例3 : Frequent fliers, many of whom are traveling on business, generate about half of United's revenue. United reported strong profit in the first quarter, a period that ended before Dr. Dao's forced removal from the flight. Mr. Kirby previously said it is too early for United to say whether furor over the mistreated passenger has hurt bookings.
(*The Wall Street Journal*)

用例4 : The new study, requested by G-20 leaders last November, fingers biofuel subsidies as among the leading causes of agricultural price shocks. According to the report, "between 2000 and 2009, global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold," a spike **which** "has been largely driven by government support policies."
(*The Wall Street Journal*)

用例 5 : So he got into the shoes snarling. Mary was soon ready, and the three children set out for Sunday-school — a place **that** Tom hated with his whole heart; but Sid and Mary were fond of it.

(*The Adventures of Tom Sawyer*)

用例 6 : After the hymn had been sung, the Rev Mr Sprague turned himself into a bulletin board and read off ‘notices’ of meetings and societies and things till it seemed that the list would stretch out to the crack of doom — a queer custom **which** is still kept up in America, even in cities, away here in this age of abundant newspapers. Often, the less there is to justify a traditional custom, the harder it is to get rid of it.

(*The Adventures of Tom Sawyer*)

念のために *The Economist* の stylebook を確認すると、*Which* informs, *that* defines. *This is the house that Jack built. But This house, which Jack built, is now falling down.*⁷ と *that/which rule* が簡潔に解説されている。また、*The Wall Street Journal* の stylebook には次の記載がある。

That is preferred in introducing essential clauses: *The company that publishes The Wall Street Journal is Dow Jones & Co.* *Which* is preferred in introducing nonessential clauses: *Dow Jones & Co., which publishes The Wall Street Journal, is based in New York.* Such a nonessential clause, between the commas, can be discarded without changing the meaning of the sentence.⁸

つまり、用例1、3、5では *that/which rule* は守られているが、用例2、4、6では破られていることになる。何が要因となって同格表現中で *that/which* の選択がなされているのであろうか。本稿では、この点に焦点を当てて検討したい。

2. 用例1～6に見る同格表現の構造上の特徴

例えば、用例1を見てみると、*Pittsburgh Pattern Recognition* と *the firm* がカンマを挟んで同格関係にあり、後者を関係代名詞節 *which owns the programme the researchers used for their tests* が修飾している。この観点から用例1～6の構造を整理すると次のようになる。

	名詞 (相当語句)		句読点		名詞 (相当語句)	関係代名詞節
(用例1)	<名 詞>	+	<カンマ>	+	<名 詞>	+ 制限節・主格の <i>that</i> >
(用例2)	<名 詞>	+	<カンマ>	+	<名 詞>	+ 制限節・主格の <i>which</i> >
(用例3)	<名 詞>	+	<カンマ>	+	<名 詞>	+ 制限節・主格の <i>that</i> >
(用例4)	< 文 >	+	<カンマ>	+	<名 詞>	+ 制限節・主格の <i>which</i> >
(用例5)	<名 詞>	+	<ダッシュ>	+	<名 詞>	+ 制限節・目的格の <i>that</i> >
(用例6)	< 文 >	+	<ダッシュ>	+	<名 詞>	+ 制限節・主格の <i>which</i> >

本稿で考察する同格表現は上記あるいはそれと類似の構造を持つが、同格とはどのような概念であろうか。『英文法解説』には「名詞（相当語句）を他の名詞（相当語句）と並べて説明を加える時、その2つの名詞が互いに同格 (apposition) 関係にある」⁹と解説されている。そして、次のような同格の形態が例文と共に示されている¹⁰。

- (1) 名詞と名詞 間にコンマを入れることが多い。

The color white is a symbol of purity.

Mr. Cook, *our mathematics teacher*, never smiles.

.....

- (2) 名詞と名詞節 名詞節は主として *that*-節である。

The fact that her fever is going down is a hopeful sign *that she is getting better*.

I insisted upon an answer to **my question whether the room could be rented or not**.

.....

- (3) 文と名詞 文が先行する例もあり、名詞が先行する例もある。

The summer continued hot and dry, **a condition** which gave rise to the danger of forest fires.

I find only **one thing wrong** with Carl: *he isn't very generous*.

.....

上記(1)の **The color white** は **The color** を *white* が制限する「制限用法の同格表現」、**Mr. Cook, our mathematics teacher, ...** は **Mr. Cook** をカンマの後に *our mathematics teacher* が補足する「非制限用法の同格表現」となっている。(2)の第1例は、名詞 **The fact** を名詞節 *that her fever is going down* が制限する「制限用法の同格表現」、(3)の第1例は、*The summer continued hot and dry* という文にカンマを挟んで **a condition** を付記した「非制限用法の同格表現」となっている。

つまり、用例1～6の共通点は「非制限用法の同格表現」で、1つ目の名詞（相当語句）（以下、「先行名詞表現」と2つ目の名詞（相当語句）（以下、「後続名詞表現」）が句読点（カンマやダッシュ）を介して並立し、後続名詞表現を制限節の関係代名詞が修飾するという構造を持っている。しかし、このような後続名詞表現を修飾する制限用法の関係代名詞として、*that* と *which* はどのような基準のもとに選択されているのだろうか。*The Economist* も *The Wall Street Journal* も *that/which rule* の遵守を謳っている以上、これを破る場合には何らかの理由がある筈である。また、Mark Twain も前述のように、基本的には *that/which rule* を遵守しているように思われるため、何らかの理由があって、制限節で *which* を用いていると推測される。（上記(3)の1番目の例文では後続名詞表現が制限用法の関係代名詞 *which* を伴うが、なぜ *which* が用いられたのかについての解説はない。）

用例1～6のような同格表現中で用いられている *that/which* の選択要因に関して参考になる文法や語法関連の文献はないのだろうか。手元にある英米の一流メディア8社の stylebook で同格に触れているのは *The New York Times Manual of Style and Usage* のみで、次のような一般的な解説しかなくない。

apposition is a useful device in which one word or phrase is placed beside another, to define or explain it. In the sentence *Her husband, Chris, was late*; the first term (*her husband*) is explained by the second (*Chris*).¹¹

本稿で検討対象にしているのは、後続名詞表現を先行詞とする制限用法の関係代名詞であり、用例1～6に見られるような「同格表現」で、後続名詞表現が制限節の関係代名詞を伴う場合に、どのような基準で *that* あるいは *which* が選択されるのか、という疑問を解く手掛かりとなる視点は提供されていないように思われる。

3. 用例1～6における *that/which* の選択要因：「不可欠」な情報と「補足的」な情報

本稿の検討対象である同格表現は、先行名詞表現と後続名詞表現の間に句読点が介在する非制限用法の同格 (*nonrestrictive apposition*) である。しかし、用例1～6を繰り返し読み返してみると、後続名詞表現は、*that* が使われている場合には、当該文あるいはその周辺の文の内容を理解するために「不可欠」(*essential*) な情報が関係代名詞節で提供されているような印象を受ける。一方、*which* が使われている場合には、それが関係代名詞制限節であるにも拘わらず、大方の場合に、あたかも非制限節であるかのように「補足的」(*nonessential*) な情報を提供しているような印象を受ける。これらの観点から用例1～6を検討してみたい（下線や太字は筆者）。

用例1 : *And, critically, online courses are significantly cheaper than the in-person kind. Many are offered free, though providers sometimes charge to certify exam results. Fees at Minerva Schools, an online institution **that** aims for top-notch students, are half of those at Ivy League universities. A new online master's degree in computing at Georgia Tech costs just \$7,000, compared with \$25,000 for the on-campus alternative.*

Minerva の授業料が *half of those at Ivy League universities* であることの意味合いを適切に理解するには、*Minerva* が *top-notch students* を対象にした *online institution* であることは不可欠な情報と言えよう。

用例2 : *All this helps to explain concerns over the use of face-recognition software by the likes of Google and Facebook, which have been acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them. (Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition, the firm **which** owns the programme the researchers used for their tests.)*

All this は、「顔認識ソフト」を用いると、例えば、SNS などのインターネット上のサイトに載っている顔写真や氏名などの個人情報と、街頭などを歩いているその個人の顔の画像を、即座に高い精度でマッチングできることを指している。後続名詞表現の *the firm **which** owns the programme the researchers used for their tests* は前文にある *firms that specialize in that technology* と類似の情報を伝えており、不可欠な情報とは言い難い。では、下線部をなぜ “*Pittsburgh Pattern Recognition, **which** owns the programme the researchers used for their tests*” と補足情報を伝える関係代名詞非制限用法を用いて書かなかったのでしょうか。前文に

acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them とあり、*Pittsburgh Pattern Recognition* が会社名なのか、ソフト名なのかが明確ではないために、*the firm* を挿入したと考えられないだろうか。“This software owns a built-in player so you can preview the original DVD and output video.”のように“software”が動詞“own”を伴う用例は複数見られる。

用例3 : Frequent fliers, many of whom are traveling on business, generate about half of United’s revenue. United reported strong profit in the first quarter, a period that ended before Dr. Dao’s forced removal from the flight. Mr. Kirby previously said it is too early for United to say whether furor over the mistreated passenger has hurt bookings.

本記事は2017年4月に、米ユナイテッド航空が「オーバークッキング」を解決するために、座席を譲ることを拒否した乗客 (*Dr. Dao*) を機内から無理やり引きずり下ろした事件を報じている。ユナイテッドは2017年第1四半期の利益は好調であったが、同社社長の Kirby 氏は事件が起こった第2四半期以降の予約にどのような影響を受けるかはこの報道時点では不明としている。従って、第1四半期が *a period that ended before Dr. Dao’s forced removal from the flight* であったことは不可欠な情報と言えよう。

用例4 : The new study, requested by G-20 leaders last November, fingers biofuel subsidies as among the leading causes of agricultural price shocks. According to the report, “between 2000 and 2009, global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold,” a spike which “has been largely driven by government support policies.”

a spike which “has been largely driven by government support policies. はその前文の *The new study ... fingers biofuel subsidies as among the leading causes of agricultural price shocks.* と同様の内容であり、補足的な情報と言えよう。又、*a spike* 以下は “between 2000 and 2009, global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold,” which “has been largely driven by government support policies.” と補足的な情報を付加する非制限用法 *which* を用いて書き換えることも可能であろう。しかし、その場合、先行詞が *global output of bioethanol* なのか、*production of biodiesel* なのか、あるいは前文全体なのかが曖昧になるという問題点が発生するように思われ、先行詞の明確化のために *a spike* を挿入したのではなかろうか。

用例5 : So he got into the shoes snarling. Mary was soon ready, and the three children set out for Sunday-school—a place that Tom hated with his whole heart; but Sid and Mary were fond of it.

後続名詞表現にある「トムが心底（日曜学校）を嫌っていた」という情報なしには、彼が靴を履きながらなぜ「うめき声を発した」のかが理解できぬため、不可欠な情報と言えよう。

用例 6 : After the hymn had been sung, the Rev Mr Sprague turned himself into a bulletin board and read off ‘notices’ of meetings and societies and things till it seemed that the list would stretch out to the crack of doom—a queer custom **which** is still kept up in America, even in cities, away here in this age of abundant newspapers. Often, the less there is to justify a traditional custom, the harder it is to get rid of it.

後続名詞表現にある「新聞が難なく読めるこの時代に、米国では都市にも依然として残る奇妙な慣習」は、その後の「しばしば、慣習というのは、正当化する理由がなければいほど、廃止することが難しい」と密接な関係にあり、不可欠な情報を提供しているように思われる。従って、本来は *that* が用いられるべき箇所と思われる。しかし、この関係代名詞節は二つの副詞句を含んでおり、それらがカンマで区切られるという複雑な構造となっている。拙著「英文メディアにみる exceptional *which* に関する一考察」で考察したように、*that/which rule* が遵守されている場合でも、関係代名詞制限節が長く複雑な構造の場合には、*that* よりも「重く」、その結果、*pause* を生み出さうる *which* が用いられる傾向が有り¹²、それが理由となって本用例では *that* に代えて *which* が用いられていると言えないだろうか。*The Adventures of Tom Sawyer* を参照すると、Mark Twain は次の文章でも *which* を用いており、長く複雑な関係代名詞節がその原因と推察される。

(a) In a safe place Tom examined two large needles **which** were thrust into the lapels of his jacket—and had thread bound about them—one needle carried white thread and the other black.

(b) Tom presented himself before Aunt Polly, who was sitting by an open window in a pleasant rearward apartment **which** was bed-room, breakfast-room, dining-room, and library combined.

上記の用例1、3、5の後続名詞表現は関係代名詞制限用法の *that* を伴っているが、1においては当該文にとって「不可欠な情報」、3においては当該文の次の文を理解する上で「不可欠な情報」、5においては当該文の前の文を理解する上で「不可欠な情報」を提供しているように思われる。用例2、4、6においては、後続名詞表現が関係代名詞制限用法の *which* を伴っている。それぞれの関係代名詞節が提供する情報は2と4では当該の文にとって「補足的な情報」というのが筆者の印象である。一方、用例6では前述のように、当該文とその後に続く文を理解する上で「不可欠な情報」だが、関係代名詞節の構造上の要因で *that* に代えて *which* が使われていると思われる。

4. 更なる用例の検討

前項用例6に見られるように関係代名詞制限節が長く複雑な構造の場合やその他の特殊要因がある場合を除き、① 後続名詞表現が伴う関係代名詞節が「不可欠な情報」を提供する場合には *that* が用いられ、② 後続名詞表現が伴う関係代名詞節が「補足的な情報」を提供する場合には *which* が用いられるという解釈が他用例にも適用可能かどうか、次の *that* が使われている5例と *which* が使われている5例を交互に検討してみたい。(下線と太字は筆者)。

用例7 : ”From the collapse of the Republican plan to repeal and replace Obamacare, something that Trump said he would do on day one, to the explosive FBI announcement that there’s an ongoing investigation into possible links between Russia and the Trump campaign, the common thread here is a White House with a credibility problem,” Stelter said.

(CNN)

オバマケア（医療保険制度改革法）改廃法案に関して、後続名詞表現にある「トランプ政権が優先的に取り組む事項」と公約していたことは、その法案撤回が同政権の *credibility problem* となる根拠の一部を示しているので、不可欠な情報と思われる。

用例8 : This can be less distracting because the driver does not need to adjust visual focus when looking between the road and a screen, says Sachin Lawande, a technologist at Harman, an American company which makes audio equipment for homes and cars. Such displays can also respond to gestures, like a wave of the hand, to silence a call instead of looking down for a button.

(The Economist)

Harman が *audio equipment for homes and cars* のメーカーであることは、前後関係から判断して補足的情報と言えよう。

用例9 : As the couriers carry their bundles around Buenos Aires, they pass grand buildings like the Teatro Colón, an opera house that opened in 1908, and the Retiro railway station, completed in 1915. These are emblems of Argentina’s Belle Époque, the period before the outbreak of the first world war when the country could claim to be the world’s true land of opportunity.

(The Economist)

that opened in 1908 は *an opera house* が第一次世界大戦前の *Belle Époque*（「ベル・エポック時代」）の象徴の1つであることを示す不可欠な情報と言えよう。

用例10 : Meanwhile, overnight interest-rate swaps—derivatives which mostly capture expectations of monetary policy—are pricing in 0.65 percentage point of cuts to the policy interest rate within the next six months, according to Nomura’s Vivek Rajpal.

(The Wall Street Journal)

後続名詞表現が伴う関係代名詞節は「翌日物金利スワップ」(*overnight interest-rate swaps*) は、「政策金利が 0.65 ポイント引き下げられるという予測を織り込んでいる」(*pricing in 0.65 percentage point of cuts to the policy interest rate*) 背景を、「主に金融政策に対する市場の期待感を反映する」(*mostly capture expectations of monetary policy*) という情報を提供することで説明しており、不可欠な情報と思われる。この記事は 2014 年 11 月 19 日に報じられたが、3 日後の 11 月 22 日には *The Australian* に掲載されており、その際には *which* は *that* に書き換

えられている。従って、用例10 は関係代名詞 *that* を伴う用例と見なすべきと思われる。

用例11 : The CSI300, an index of the biggest mainland stocks, has more than doubled over the past year. That looks positively anaemic compared with ChiNext, a market for Chinese startups **which** has tripled in 12 months; let alone with shares in Qtone, an online-education company **that** gained almost 1,300% between its listing early in 2014 and the middle of this month. Its own directors have warned investors to be wary of “ignorant hype”.
(*The Economist*)

過去 12 か月に 2 倍超の伸びを見せた *CSI300* 株価指数を *positively anaemic* (良い意味で停滞気味) とする根拠が、過去 12 か月で 3 倍となった *ChiNext* (以下、この部分の同格表現は用例11-1 と呼ぶ) と、2014 年初めの上場以来 1300%近い急騰を見せている *Qtone* 社の株式(以下、この部分の同格表現は用例11-2 と呼ぶ) となっているので、両者共に不可欠な情報と言えよう。しかし、*that* を用いると同一文中に That looks positively anaemic compared with ChiNext, a market for Chinese startups **that** has tripled in 12 months と品詞が異なる *that* が混在することになるため、後者を *which* の代えたのではなかろうか。この種の用法は数多く見られ、Jacques Barzun は著書 *Simple and Direct* で *I do not like to put close together two that's of different kinds*¹³ と述べている。

用例12 : Father Boyle hired Frank to work at a bakery he had set up to provide jobs to people trying to go straight. He also found a doctor to help remove his act of nihilistic rebellion from his face. The bakery was the first business in what is now Homeboy Industries, a non-profit **which** has since grown to be America's largest gang-rehabilitation centre, offering employment and other services to hundreds of former gang members. Its free tattoo-removal service has become the organisation's biggest claim to fame.
(*The Economist*)

Homeboy Industries は多数の元暴力団員への雇用の提供など様々な活動をする米国最大の暴力団更生施設であることは、このニュースでは不可欠な情報と言えよう。同施設が入れ墨を消すサービスを元暴力団員に無料で行き、名声を得る最大の理由となっているとの説明の全体像を理解するには、後続名詞表現に続く関係代名詞節が不可欠な情報を提供していると言えよう。従って、本来は *that* が適切だが、関係代名詞節が *offering* 以下の分詞構文を伴っており長く複雑な構文であるため、*which* が選択されたものと思われる。例えば、関係代名詞節が分詞構文を伴う場合に *which* が用いられる傾向は次の用例にも見られる。

The liquid diarrhoea and vomit jetted out by a body infected by the bacterium *Vibrio cholerae* is a reminder, in extreme form, of the danger lurking in the excrement **which** flows from every human settlement, *creating a problem few want to go near*.
(*The Economist*)

用例13 : Enabling the safety tech are cameras, sensors, microprocessors and other hardware whose repair costs can be more than five times that of conventional parts. And the equipment is often located in bumpers, fenders and external mirrors—the very spots that tend to get hit in a crash. Insurance companies, unwilling to shoulder all the pain, are passing some of the cost off to buyers.

(*Wall Street Journal*)

車の安全対策用ハイテク機器の多くが搭載されているのが、バンパー、フェンダー、外部ミラーとのことで、*that* 節に記載されている衝突事故が起きた場合に最も破損しやすいのがこれらの箇所との指摘は、自動車保険会社が保険料の値上げに動いている背景を理解するには不可欠の情報と言えよう。

用例14 : The irony is that, by withdrawing from the TPP—a trade agreement **which, though it currently excludes China, might one day have constrained its ability to pollute and subsidise state-owned enterprises**—Mr Trump has immediately turned his back on the most promising way to change the economy he seems most worried about. If he really wanted to shake up the global trade system for the better, Mr Trump would resurrect some of the TPP’s provisions and use them as the basis for a grand bargain with China and other countries.

(*The Economist*)

後続名詞表現が伴う *which ... might one day have constrained its ability to pollute and subsidise state-owned enterprises* は同文中の *the most promising way to change the economy he seems most worried about* の根拠を説明している。つまり、中国をいずれ TPP に加盟させることで、同国に環境規制を強化させたり、国営企業への補助金を削減させることが可能になるにも拘わらず、トランプ大統領が米国としての TPP 不参加を表明したことは、同大統領が最も懸念している中国経済に対する米国としての牽制力を放棄したことになるとの見方であり、*which* 以下は不可欠な情報と言えよう。それにも拘らず、*that* が使われていない理由は、直後に *though it currently excludes China* という関係代名詞とその動詞を分離する挿入があるためと思われる。John F. Genung は関係代名詞 *that* に関して “*That* sound ill when separated from its verb and from its antecedents, and emphasized by isolation.”¹⁴ と述べている。つまり、本来は *that* が使われるべき時に、その先行詞と動詞が副詞・副詞句・副詞節などの挿入で引き離される場合には、*which* が選択される傾向があることを示唆している。同様の例としては次がある。

A perilous economic existence and a culture **which almost indiscriminately** holds people responsible for their circumstances are toxic for mental well-being.

(*The Economist*)

用例15 : The oldest European family business, according to Mr O’Hara and Peter Mandel in *Family Business* magazine (see table), is Château de Goulaine, a vineyard in France’s Loire valley that dates from 1000—and also boasts a museum and butterfly farm. Britain’s oldest

family business, founded in Huddersfield in 1541, is John Brooke & Sons, a textile-maker that helped clothe Britain's bravest during the battle of Trafalgar and the second world war, but has now abandoned manufacturing and turned its mills into a business park.

(*The Economist*)

ヨーロッパ最古のファミリービジネスを紹介する文章である。フランスでは *Château de Goulaine* とのことだが、*dates from 1000* を含む関係代名詞節は不可欠な情報を提供していると言えよう（以下、この箇所は用例15-1と呼ぶ）。一方、英国では *John Brooke & Sons* だが、トラファルガーの海戦や第二次世界大戦の軍服を供給したという事実も不可欠な情報と言えよう（以下、この箇所を用例15-2と呼ぶ）。

用例16 : They studied the results of 9,323 MBA interviews conducted by 31 admissions officers. The interviewers had rated applicants on a scale of one to five. This scale took numerous factors, including communication skills, personal drive, team-working ability and personal accomplishments, into consideration. The scores from this rating were then used in conjunction with an applicant's score on the Graduate Management Admission Test, or GMAT, a standardised exam which is marked out of 800 points, to make a decision on whether to accept him or her.

(*The Economist*)

この文を、The scores from this rating were then used in conjunction with an applicant's score on the Graduate Management Admission Test, or GMAT, which is marked out of 800 points のように a standardized exam を削除して書くと、which の先行詞が *the Graduate Management Admission Test* なのか、*GMAT* なのかが構文上、不明確となる。そこで、a standard exam という後続名詞表現を付加情報として添加することで構文上の明確化を図ったのではなかろうか。一方、*which* 節の内容は補足的な情報と思われる。

5. 同格関係を構成する後続名詞表現中の *that/which* の使い分けに関する推察

第3項の用例1～6、第4項の用例7～16に関する考察は次のように纏めることが出来よう。

(1) 用例1、3、5、7、9、10、11-2、13、15-1、15-2 :

後続名詞表現が伴う *that* に導かれる関係代名詞節は「不可欠な情報」を付加しているように思われる。

(2) 用例2、4、8、16 :

後続名詞表現が伴う *which* に導かれる関係代名詞節は「補足的な情報」を付加しているように思われる。

(3) 用例6、12、11-1、14 :

後続名詞表現が伴う *which* に導かれる関係代名詞節は「不可欠な情報」を付加しているように思われるが、① 関係代名詞節が分詞構文を伴っており、構文全体が長く複雑（用例6、12）、② 先行・後続同格表現を含む文の中に他品詞の *that* が混在する（用例11-1）、③ 後続

同格表現中の制限用法の関係代名詞とその動詞との間に挿入句がある（用例14）、といった要因で関係代名詞 *that* に代えて *which* が使われているのではなからうか。

上記の (1) の用例群で使われている関係代名詞 *that* 節が「不可欠な情報」を付加している、上記 (2) の用例群の *which* 節が「補足的な情報」を付加しているという印象が、共に正しいとしよう。その場合に検討せねばならぬことは、関係代名詞 *that* と *which* がなぜ同じ「制限用法」で異なる役割を果たし得るのかという点である。そこで、(1)にある10の用例に見られる *that* と、(2)にある4つの用例に見られる *which* は、共に本質的には「カンマが省略された非制限用法」と見なすことはできないだろうか。非制限用法の関係代名詞の直前にあるべきカンマが、意味の明確化やカンマの密集を避けるために省略されるという現象は一流紙でも散見される用法である。

先ず、*which* の場合から検討してみよう。Bruce Ross-Larson は著書 *Edit Yourself* で次のような解説をしている¹⁵。

Take this fragment as the problem: “The meaning of the sentence, which usually is obvious from. . . .” How can you make it clear that the relative clause relates not to *sentence*, which it follows, but to *meaning*? Here are some solutions.

.....

Repeat the noun before a relative clause

The meaning of the sentence, which	TRY	The meaning of the sentence, meaning
usually is obvious from. . .		which is obvious from. . .

.....

注目したいのは、先行詞の明確化のために *meaning* を繰り返しているが、元の文にある *which* を *that* には書き換えていないことである。因みに、Ross-Larson は上記の記述に続く箇所では *that-which rule* の使用を推奨している。更に、同書中の解説文や自らが作成したと思われる例文中の49か所で制限用法 *that* を使用しており、制限用法 *which* の使用は見られない。つまり、(2)の4つの用例の *which* は本質的には「カンマが省略された非制限用法」で、補足情報を付加しているとの印象を受けるのは、このためであると推察することはできないか。

では、*that* はどうか。関係代名詞 *that* の非制限用法は17世紀初期までは使われていたが、17世紀末には *that* の関係代名詞としての使用そのものが姿を消し、18世紀初めに再登場するが、非制限用法での使用は減少の一途を辿った、との解説が一般的である¹⁶。そして、今日では少なくともニュースで目にすることは皆無に等しいと言えよう。こうした中、この「絶滅種」とも思われる関係代名詞の用例がニュース以外の分野で、次のように時折「目撃」されている。(太字は筆者)

- (a) Someday, perhaps soon, this store will be gone, and we will be scattered to the four winds. In those days, when we have each gone our separate ways, we will look back on these times, **that** seemed so bad, fondly, for we had each other.¹⁷

- (b) So what is the sensational finding? The key point, **that** all the popular reports missed, is that FOXP2 is a transcription factor—in other words it has the potential to affect the expression of an unknown, but potentially large number of other genes. No wonder the syndrome presents in such a diffuse way.¹⁸

両例にみられる非制限用法の *that* はどのような意図で使われているのであろうか。(a) は一コマ漫画の主人公の発言であるが、作者自身が *that* を用いた意図を次のように述べている。

I write dialog so that it sounds like spoken language if read aloud. The commas are there so you know when the character pauses to emphasize words, or what have you.¹⁹

つまり、*that seems so bad* を「強調するために」*that* の前にカンマを打ったと説明している。(b) に関しては、言語学者 Geoffrey K. Pullum はこの *that* は非制限用法の関係代名詞と見なしており、「転写因子」(transcription factor) に関する本文章を書いた科学者にどのような意図で *that* を用いたのか説明を求め、回答を得ている。

I contacted the author of the sentence, Alec MacAndrew, and asked him what sense he had in mind when he wrote the article in question. He has kindly confirmed that I correctly divined his intention: he did indeed intend the supplementary semantics, where the meaning is “The key point—and incidentally, all the popular reports missed it—is that FOXP₂ is a transcription factor”.²⁰

つまり、(b) の *that* は「非制限用法の *that*」であると著者 MacAndrew 自身が確認している。また、当該論文には関係代名詞 *that* が 29 回使用されているが、非制限用法は (b) に見られる *that* のみであり、この非制限用法が意識的かつ例外的に用いられていることが明らかである。では、著者は非制限用法 *that* を用いて何を表現しようとしたのだろうか。当該論文の結論に含まれている次の文章が参考になる。

We should beware of popular reports of scientific discoveries: almost all the popular reports of FOXP₂ claimed that it was the gene for language or even more ludicrously the gene for grammar—the truth is more complicated and far more interesting than that. There are many popular reports of scientific discoveries which are equally sensationalised.²¹

著者は FOXP₂ が転写因子であることに加えて、科学的発見に関する一般紙の報道内容の不正確さを「強調している」と思われるのである。より広範な用例の検討が必要だが、非制限用法 *that* には、非制限用法ながら「不可欠な情報」を付加する機能があると言えないだろうか。

6. おわりに

上記の考察が当を得ているとすれば、本稿で検討対象とした「先行名詞表現+句読点+後続名詞表現+ *that/which* 節」における *that/which* は ①本質的には非制限用法である、② *that* が使われた場合には「不可欠な情報」を伝達している、③ *which* が使われた場合には「補足的な情報」が伝達されている、④「真の先行詞」は後続名詞表現ではなく、先行名詞表現である、⑤後続名詞表現は先行名詞表現に関する様々な付加情報を提供している、と纏めることが出来る。しかし、本稿での考察は推測の域を出ず、更に用例を収集して検討を重ねる必要がある。特に、非制限用法 *that* の用例収集と分析が重要である。また、後続同格表現で *which* が使われる頻度は英国メディアが米国メディアを上回っているように思われる。この印象が正しいとすれば、両国のメディアにみられるこの頻度の違いは何を意味するのだろうか。米国メディアによる *which* の使用が少ないとした場合、どのような構文がそれを補っているのだろうか。また、非制限用法 *that* の使用は今日、殆んど目にすることはないが、この用法がかつて伝達していた意味は今日、どのような構文で表現されているのだろうか。同格表現で用いられる *that* がその役割を担っているのだろうか。併せて、今後の検討課題としたい。

注

¹ 本稿は、2017年3月25日開催の日本英語コミュニケーション学会関東地区フォーラムにおける「英文メディアにみる関係代名詞の『仮先行詞』と制限用法 *that/which* の選択要因について」と題する発表に基づくものである。

² この関係代名詞は関係副詞的に用いられている。

³ *The Associated Press Stylebook 2015 and Briefing on Media Law* (2015: 260)

⁴ 小西和久 (2015: 3-4)

⁵ Biber et. al. (1999:616)

⁶ 本稿の検討でそのいくつかを紹介するが、より詳細に関しては *The JASEC Bulletin* 第24巻「英文メディアにみる exceptional *which* に関する一考察」、*JASEC Bulletin* 第25巻「関係代名詞制限節の *which* について—Barzun の用法に対する Williams と Bolinger のコメントをめぐって—」を参照。

⁷ *The Economist Style Guide*, 10th ed.(2010: 148)

⁸ *The Wall Street Journal Essential Guide to Business Style and Usage* (2002 :230)

⁹ 江川泰一郎 (1991: 23)

¹⁰ 同書 (23-24)

¹¹ *The New York Times Manual of Style and Usage* (1999: 25)

¹² 小西和久 (2015: 18-19)

¹³ Barzun (1975: 83-84)

¹⁴ Genung (1896: 129)

¹⁵ Ross-Larson (1996: 26)

¹⁶ Webster's Dictionary of English Language (1989:894-895)

¹⁷ Liberman (<http://languagelog.ldc.upenn.edu/nll/?p=3858>)

- ¹⁸ Pullum (2005) には “The key point, that all the popular reports missed, is that FOXP2 is a transcription factor...” と引用されているが、http://www.evolutionpages.com/FOXP2_language.htm (accessed November 30, 2017) を参照し、省略部ならびに前後の文章を引用した。
- ¹⁹ Liberman (ibid.)
- ²⁰ Pullum (ibid.)
- ²¹ MacAndrew (http://www.evolutionpages.com/FOXP2_language.htm)

参考文献

- Barzun, Jacques. (1975). *Simple & Direct. 4th ed.* New York: Harper Perrenial
- Biber, D., Stig, J. Leech G., Conrad, S, and Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English.* Harlow: Pearson Education
- Cook, Claire K. (1985). *Line by Line.* Boston: Houghton Mifflin
- Genung, John F. (1896). *The Practical Elements of Rhetoric: With Illustrative Examples.* Boston: Ginn & Company, Publishers
- Hall, J. L. (1917). *English Usage; Studies in the History and Uses of English Words and Phrases.* Chicago: Scott, Foresman and Company
- Liberman, Mark. “Non-restrictive ‘that’” Language Log, March 22, 2012, <http://languagelog.ldc.upenn.edu/nll/?p=3858> (accessed November 30, 2017)
- MacAndrew, Alec. “FOXP2 and the Evolution of Language”, http://www.evolutionpages.com/FOXP2_language.htm (accessed November 30, 2017)
- Pullum, G.K. “AN IVORY-BILLED RELATIVE CLAUSE” Language Log, December 1, 2005, <http://itre.cis.upenn.edu/~myl/languagelog/archives/002681.html> (accessed November 30, 2017)
- Quirk, R., Greenbaum, S., et al. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language.* Harlow: Longman Group
- Ross-Larson, Bruce (1982). *Edit Yourself.* (New York: W.W. Norton & Company)
- Kessler, L. and McDonald D. *When Words Collide* (7th ed.). Boston: Thompson Wadsworth
- The Associated Press Stylebook 2015 and Briefing on Media Law.* Chicago: Basic Books
- The Economist Style Guide,* 10th ed. London: Profile Books
- The New York Times Manual of Style and Usage.* New York: Three Rivers Press
- The Wall Street Journal Essential Guide to Business Style and Usage.* New York: Wall Street Journal Books
- Webster’s Dictionary of English Usage.* Springfield: Merriam-Webster, 1989
- 江川泰一郎 (1991) 「英文法解説」(改訂三版)(金子書房)
- 小西和久 (2015) 「英文メディアにみる exceptional which に関する一考察」*The JASEC Bulletin*, 24 (1), 1-24
- 小西和久 (2016) 「関係代名詞制限節の which について—Barzun の用法に対する Williams と Bolinger のコメントをめぐって—」*The JASEC Bulletin*, 25(1), 17-31